雪谷小学校　改築だより（案）

令和８年　月
大田区教育委員会

基本設計をすすめています

雪谷小学校は校舎の過半が築50年近く経過しており、機能更新が必要となっています。令和７年度より全面改築に着手し、現在基本構想・基本計画をもととした基本設計をすすめています。基本設計書の内容について、お知らせいたします。

雪谷小学校の改築にあたっては、教育環境を向上させることを前提として、教育と地域力の新たな拠点づくりを目指します。今後、基本設計書にまとめた考え方に則り実施設計を行い、順次工事へと進めてまいります。

基本構想・計画の振り返り

◇改築コンセプト

ふれあい
～自然とふれあい、学びとふれあい、人とふれあう～

1. 自然に囲まれ、四季を感じ、豊かな感情を育む環境
2. 図書室を中心とした、新たな知識との出会いの場
3. 仲間との絆を深め、地域とのつながりを生み出す広々とした空間

※なお、改築にあたっては教育環境等を考慮し、以下のことを計画しております。

- ●改築全体の工事期間短縮を前提とした上で、学校を運営しながら雪谷小学校敷地内での建て替えを行う。
- ●工事期間中は、体育館、校庭等が使用できない期間が発生しないよう、工事ステップを計画する。
- ●改築後は、既存より広い人工芝の校庭と天然芝エリアを設け、プールは近隣施設を利用する。

基本設計における考え方

◇コンセプト実現に向けて

児童の快適な学習空間と生活環境の確保	多様な学びに対応ができる図書室や、教科横断的な学びを促す特別教室廻りを計画
見通しが良く見守りやすい安心安全な校舎	見通しの良い廊下を計画し、安全性を向上
周辺環境や敷地の特色を活かした室配置	桜並木や呑川といった周辺の借景を積極的に取り込める特別教室や図書室を配置
地域の方々にも開かれた使いやすい校舎	地域開放諸室を呑川沿いに配置し、中の活動が街へと滲み出し、地域と自然に交流が生まれる計画
教職員が快適かつ効率的に働きやすい校舎	職員室、印刷室などを集約し、動線の短縮により校務の効率化を図る

◇基本計画からの主な変更点

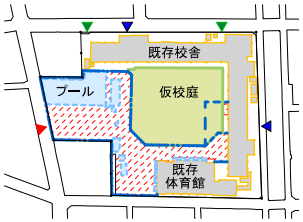
- ●地域開放諸室は、呑川沿いの自然を感じ、地域と学校の結節点となるよう、呑川沿いに計画。
- ●給食室は、搬入動線を単純化するとともに、児童たちの食育に寄与するため、昇降口に面して計画。
- ●図書室は、特別教室や屋外テラスに面する２～３階に計画し、開放的で総合的な学習に寄与する。

全体スケジュール（予定）

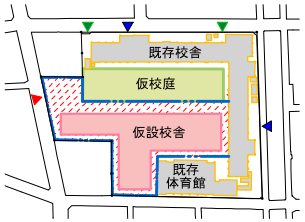
	R9年度（2027）	R10年度（2028）	R11年度（2029）	R12年度（2030）	R13年度以降（2031）・・・
工程	実施設計				
	Step①	Step②	Step③	Step④～⑦	

工事ステップ図（予定）

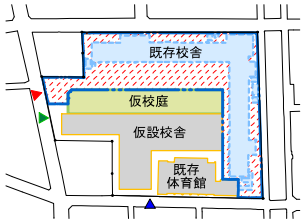
Step① 体育館一部＋プール＋付属棟解体



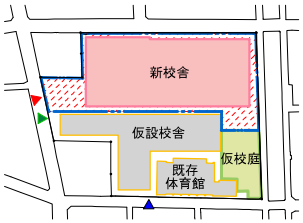
Step② 仮設校舎建設＋仮設校庭整備



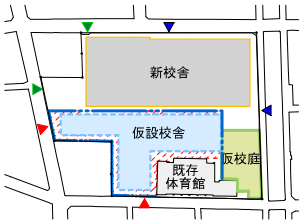
Step③ 校舎棟解体＋仮設校庭整備



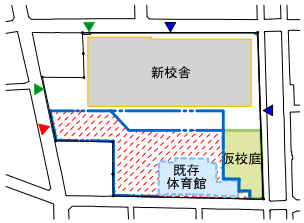
Step④ 新校舎＋体育館建設



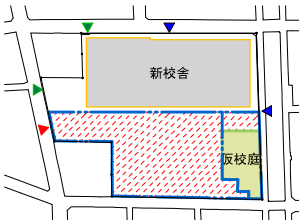
Step⑤ 仮設校舎解体

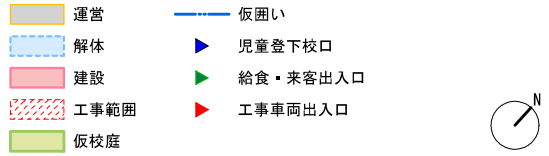


Step⑥ 体育館棟解体



Step⑦ 校庭整備





※裏面「雪谷小学校　基本設計図面（案）」もあわせてご覧ください。
※本資料における「全体スケジュール（ 予定 ）」、「工事ステップ図（ 予定 ）」及び「雪谷小学校　基本設計図面（案）」 は、現時点での予定であり、実施設計における 詳細な検討及び協議等に伴い、今後変更する場合があります。

雪谷小学校　基本設計図面（案）（令和８年９月時点）

■ 配置計画

校舎は周辺環境へ配慮し、既存校舎を踏襲した北側配置とします。校庭は日当たりの良い南側に計画します。

1 校庭（外構）

校庭は人工芝舗装とし、既存校庭を上回る校庭面積（約3,300㎡）を確保します。雪谷小の特色である天然芝は、プレイコートとして継承します。

1 呑川沿い（外構）

呑川沿いに桜を植樹し、地域の良好な景観を形成して地域貢献を図ります。春は花見スポットとして賑わい、日常的にも人々の憩いの場となります。

3 昇降口（1階）

昇降口前に十分な滞留スペースを確保し、登下校時の混雑緩和と安全性の向上を図ります。エントランスホールを中心に各ゾーンを配置し、校内動線の起点となる分かりやすいゾーニングとします。

■ 管理諸室（1階）

校庭に面して配置し、児童を見守る視認性を確保し、機能性と防犯性に配慮します。

3 呑川ホール（地域集会室）（1階）

地域開放諸室を呑川沿いに配置し、地域活動の活気を屋外へ伝え、学校と地域との繋がりを深めます。

1 特別支援学級（杉の子学級）（1階）

明るく快適な南側に面して配置し、天然芝プレイコートを近接させることで、屋外活動を行いやすい環境を整えます。

3 多目的スペース・習熟度別指導教室（2～4階）

２学年の中心に計画し、両方から利用できる配置とすることで、学年集会や異学年の交流など多様な学習形態に対応します。

3 普通教室（2～4階）

採光に優れた南側に配置し、他学年の動線と交差しない独立性の高い計画とします。また学年ごとのまとまりを維持し、落ち着いた学習環境を形成します。

■ 体育館（2階）

呑川の氾濫による浸水リスクを想定し、地域の防災拠点としての機能を維持・確保するため２階レベルに計画します。

2 図書室（2～3階）

全学年が使いやすい２・３階の学校の中心に配置します。ワークショップの意見を反映した２層吹抜けの計画とし、上下の繋がりや多様な知識との出会いを創出する拠点とします。

1 屋外テラス（3～4階）

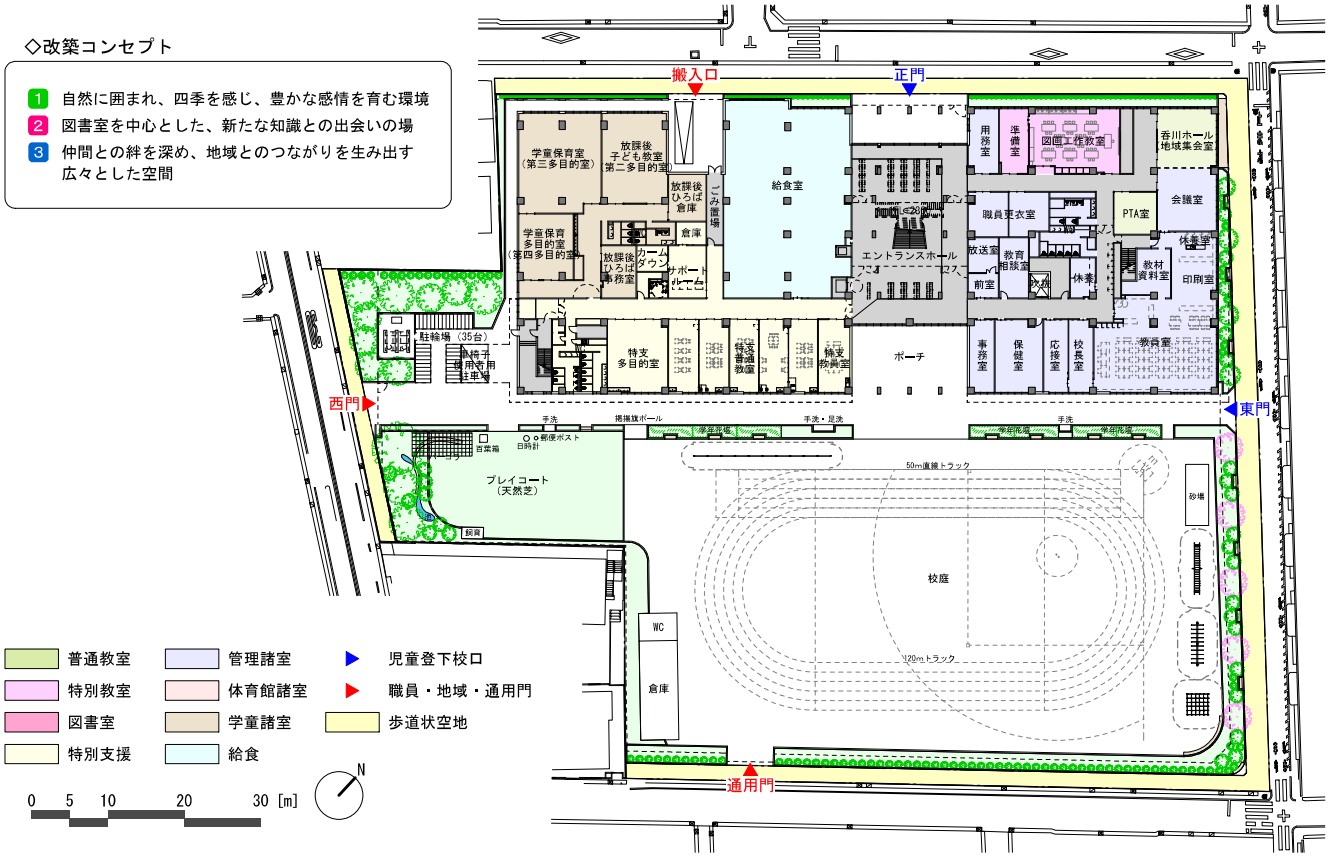
日影規制によるセットバックを活用し、図書室に面した屋外テラスを計画します。読書や屋外学習などを一体的に行える環境を整えます。

■ 近隣配慮

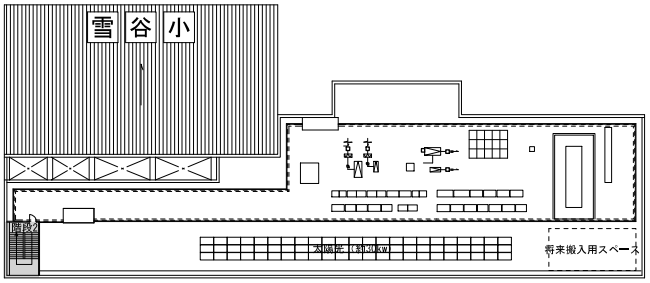
体育館は近隣住宅に背を向けてステージを配置し、音や光の影響に配慮します。設備置場は近隣への騒音影響を抑えるため、十分な離隔距離を確保します。

◇改築コンセプト

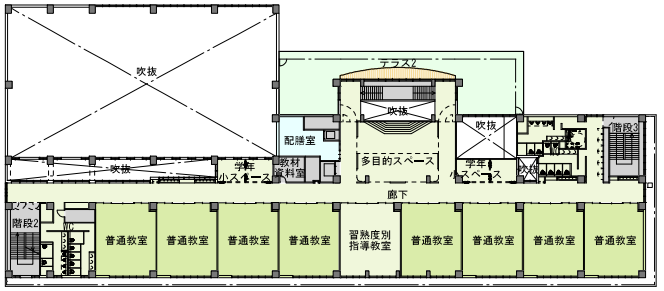
1 自然に囲まれ、四季を感じ、豊かな感情を育む環境
2 図書室を中心とした、新たな知識との出会いの場
3 仲間との絆を深め、地域とのつながりを生み出す広々とした空間



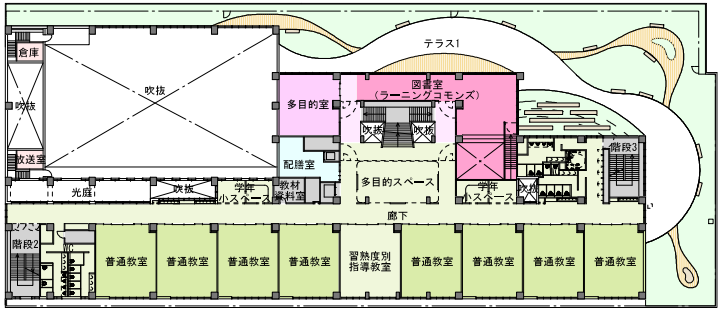
1階平面図兼配置図



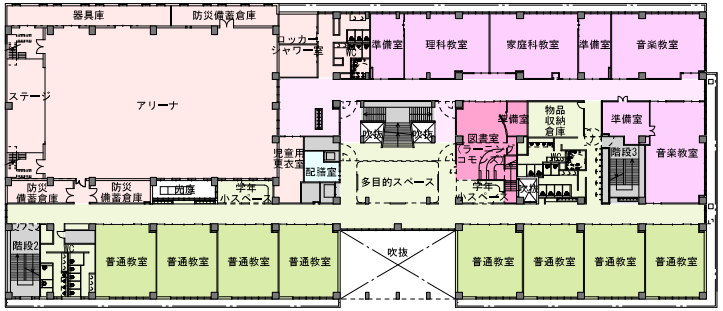
R階平面図



4階平面図



3階平面図



2階平面図